



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hoyukai.org/>

発行:2014年7月15日  
発行責任者: 鵬友会  
特定医療法人社団 事務局長 池島 守

## 新中川病院における結核早期診断の取り組み

～ なぜ、今『結核』が・・・難しいのか? ～

新中川病院 医師 池田 康彦

わが国の結核罹患率（人口10万対の新登録結核患者数）は平成24年の統計で16.7と、米国の3.4と比較すると5倍近く高いレベルであり、罹患率は減少傾向にあるとはいえ、国内では未だ年間2万1千人以上の結核患者が新たに登録されています。※)日本の結核患者層の特徴として、患者の高齢化が進んでおり、新登録結核患者の半数以上は70歳以上の高齢者によって占められています。※)つまりこの結核患者の高齢者偏在は私ども主に高齢者を対象とする医療機関に従事する者は必ず認識しなければならない問題であり、実際に高齢者施設・医療機関における結核集団感染のニュースを度々目にすることがあります。また当然結核は高齢者だけの病気というわけではなく若い世代にも感染するので、高齢者医療機関においては患者間のみでなく、医療従事者への感染も未然に防がなければなりません。当院においても昨年、一昨年と結核症例を経験し、その度毎に対策を見直してきましたので、当院の結核早期診断の取り組みについて紹介させていただきます。

まず、なぜ結核は蔓延するかを考えたときに結核の診断の難しさが挙げられます。結核を経験したある芸能人の手記を読んだことがあります、とにかく咳と熱が辛くていろいろな医療機関を受診したが「風邪」や「咽頭炎」と診断され、結局、結核と分かるまで9ヶ月もかかってしまったというものでした。結核は咳や微熱、盗汗などの非特異的な症状で始まることが多く、またレントゲンを撮ったからといって必ずしも診断できるのではなく、医師は結核を疑ってかかればなかなか診断できないと言われています。当院ではこのように診断が難しい

結核を水際で防ぐために、痰が採取できる患者さんに限り入院時に必ず塗抹・培養検査をするようにしています。結核の検査を絨毯爆撃的に行うことは高騰する医療費の観点から慎重に考えなければなりません。しかし結核を見逃し院内で蔓延してしまったときにかかるコストや人的被害の大きさと比較し、どのあたりが適切かを考えることは今後の検討課題だと思います。

結核の治療は本来3種類以上の薬を最低でも6ヶ月間服用する必要がありますが、抗菌薬の中には結核の症状を一時的に軽減させ結核の診断を困難にしてしまうフルオロキノロン系のようなものがあります。入院患者さんが肺炎になったからといって安易にフルオロキノロン系薬を処方すると、結果として結核の発見を遅らせてしまう危険性があり、当院ではこのような薬をなるべく処方しないよう常勤・非常勤医師に協力してもらっています。また言うまでもなく、発熱や肺炎に対して医師がその原因を考えずに安易に抗菌薬を処方することは結核早期診断の妨げになるため、当院では特に気をつけるようにしています。

当院が高齢者に優しい医療を提供するためには、早期診断によって結核患者ではなく結核という病気を排除していく必要があると考えています。そのためには医師のみでなく医療者全員が結核を見逃さないという意識が必要であり、当院では定期的な研修会を実施し、啓蒙に取り組んでいます。

※)平成24年結核登録者情報調査年報集計結果（概況）厚生労働省Homepage  
(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou03/12.html>) 7/7/2014

# ♪ 音楽会 ♪

～ 新中川病院 ～

新中川病院では、入院中の患者さまに、音楽を通して季節を感じてもらったり、穏やかで楽しい期間を過ごしてもらいたいという思いから、定期的に音楽会を開催しております。

歌を歌うこと以外にも、口や手を動かす運動を音楽に合わせておこなうなど、患者さまへのよい刺激になるような内容を企画しています。

参加された方を見ると、歌を歌いながら手拍子をしたり、声は出ていなくても懐かしそうな表情を浮かべ口を動かしていたりと、様々な反応をされていました。

※原則として月に一度、水曜日の午後開催しています。

※詳細は新中川病院ホームページにて

<http://www.hoyukai.org/shin-nakagawa/>



## ほうゆう訪問看護 ステーション紹介

### 明るい笑顔で元気な訪問！

『住み慣れた自宅で、快適な療養生活が遅れるよう、ひとりひとりの状態にあわせた看護・リハビリを提供しています。』

ほうゆう訪問看護ステーションは『リハビリスタッフ』も充実しております。看護師以外にも理学療法士・作業療法士が訪問します。

#### 【問合せ・連絡先】

訪問看護・訪問リハビリ、介護支援（ケアマネ）等についての相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。

〈訪問看護・訪問リハビリ〉

【TEL】：045-810-3455 【FAX】：045-810-3423

〈介護支援（ケアマネ）〉

【TEL】：045-814-3900 【FAX】：045-814-5431



【リハビリスタッフの皆様】